

# 第9回 アジア冬季競技大会



©フォート・キシモト

令和7年2月7日(金)から14日(金)までの7日間、中国・ハルビンで開催されたアジア冬季競技大会に、自衛隊体育学校から2競技10名が出場し、3種目3個のメダルを獲得した。

クロスカントリースキー班 山下陽暉（やましたはるき）2等陸曹は、2月10日(月)に10Kmフリー種目男子個人戦に出場し、金メダルを獲得した。山下2曹は、6.8Kmを1位選手から5秒差の3位で通過すると、後半に強い山下2曹は残りの3.2Kmから粘り強い滑りを見せ、残り2Kmで首位に立ち2位の選手に10秒の差をつけ金メダルを獲得した。

大会後、山下2曹は「今回のアジア大会では絶対に金メダルを獲得するという気持ちで大会に挑み、狙っていた10Kmフリー種目では最後の最後まで諦めず、特に後半は自分の粘り強さを信じレースに臨み逆転優勝をすることができた。日本チームを初め、サポートや応援してくださる方々のおかげで、この結果を出すことができ本当に感謝の気持ちでいっぱいです。」と語った。クロスカントリースキー班はアジア冬季競技大会での個人戦初の金メダル獲得となった。

2月12日(水)に山下陽暉2等陸曹と森口翔太（もりぐちしょうた）2等陸曹は7.5Km×4名リレー男子団体戦に出場し、銀メダルを獲得した。

1走の森口2曹は、1位のカザフスタンから11秒差の3位で2走の宇田選手(株式会社 福井村田製作所)に繋ぎ、3走の羽吹選手(エフエム雪国スキークラブ)が2位集団に3秒差の1位で4走の山下2曹に繋いだ。金メダル獲得の望みを託された山下2曹は最後のスプリント勝負で中国に振り切れ惜しくも銀メダルとなった。

大会後、森口2曹は、「慣れない環境下でのコンディション調整で大変だったが、自分の出来る最大限のパフォーマンスを発揮し銀メダル獲得の貴重な経験が出来た。引き続き更なる高みを目指して頑張りたい。」と述べた。

山下2曹は「最終種目であるリレーも金メダルを狙っていたが、自分の力不足で準優勝に終わってしまい、悔しい気持ちも残ったアジア大会になった。この悔しさは次の世界選手権大会で晴らしたい。」と、ミラノ・コルティナ冬季五輪出場権獲得に向け意気込みを語った。



山下2曹

山下2曹



1走 森口2曹

©フォート・キシモト



4走 山下2曹

©フォート・キシモト



森口2曹

宇田選手

羽吹選手

山下2曹

©フォート・キシモト



バイアスロン班は2月13日(木)に立崎幹人(たちぎきみきと)1等陸尉、山本大晴(やまもとまさはる)2等陸曹、小島清雅(おじまきよまさ)陸士長が7.5Km×4名リレー男子団体戦に出場し金メダルを獲得した。

1走の小島士長は、1位の韓国から24秒差の3位で2走の立崎1尉へと繋ぎ、3走の山本2曹へ繋いだ時点では1位のカザフスタンから8秒差にまで詰めた。山本2曹はさらにこの差を0.5秒差まで縮め、4走の枋木(こばのき)2曹(元体育学校、現第5普通科連隊)に金メダルの望みを託した。枋木2曹は射撃のペナルティーがなく、2位カザフスタンに大差をつけ、金メダルを獲得した。

大会後、小島士長は「個人、チームともに今シーズンの最大目標であるレースで勝つことができたととても嬉しい。この経験を成長の糧にして自分を高めていきたい。」と述べた。

立崎1尉は「体調不良により、今シーズン1番の目標としていた個人戦に出られず悔しい思いもあった。しかし、リレーではチームの力で金メダルを獲得し、国際大会での厳しい戦いを最高の形で締めくくることができた。」と述べた。

山本2曹は「個人戦は、自分の強みと弱点がどちらも出たレースになり最低限の5位に入ることができて悔しさもあるが安心した。リレーでは風が強い状況だったが、最大の目標だった金メダルを獲得できて本当に嬉しい。チームメンバーや、コーチ、ワックスマン全ての人々の力で取れた金メダルだと思う。一方で、改めて感じたバイアスロンの楽しさや難しさを教訓として来年のオリンピックに向けて活かしていきたい。」と述べた。

今大会の開催地である、中国・ハルビンに晴天に恵まれたが、マイナス20度と寒い日が続いた。金メダル獲得には、体育学校から派遣されたサポートスタッフ6名の力が必要不可欠であった。

次のステージは、2026年開催予定のミラノ・コルティナ冬季五輪へと続いていく。



温かいご声援

ありがとうございました。

NEXT STAGE

2026

ITALY

MILANO KORTINA



自衛隊体育学校  
PHYSICAL TRAINING SCHOOL

